

花鳥風月・俳句

広広ときらきら水田迎え梅雨

越智 恵美子

重ね着て初たけのこは顔を出す

産声や母となりたる春あけぼの

今城 宏子

新緑となりし変りし山の景

晴れ渡り冬着の仕舞い日和かな

三浦 シズ子

ウォーキング緑雨の中へ溶けてゆく

万緑やサイクリストの目を奪ふ

徳永 誠一

咲いているチューリップがあざやかに

寒くなり山茶花の花咲きにけり

明星 勲

母の日や思い出すたび笑顔でる

春灯や我が眺め川ぽかぽかと

篠原 高代

古里を好むあなたに夏の風

手間かけぬ素顔のままの夏野菜

小野 弘幸

梅雨晴間布団座布団マツト陽に

田中 良子

小学生先頭にして登校す

新築の一家屋にこいのぼり

加藤
イサ子

高れいの先生といてまごと春

それなりに曲線となる棚田かな

曾我部
福石

囀りや木々の新芽が背伸する

茉莉花の香り重なる闇深し

塗
堀
良子

五十余の常盤木散るに任せけり

花水木の紅白並木通りかな

鈴木
伊都美

野いちごや先客の蟻大騒ぎ

麦雀孫と一緒にかくれんぼ

落合 敦

そら豆の皮むきたりてひすい飯

石井 トシ子

河鹿鳴く流れに沿ひてバスを待つ

紫陽花のひそひそ話聞いてをり

蛩舞ふふるさとまでの遠き道

小田 和子

梅雨寒や朝刊配るバイク音

ぶら下がりたいなと思ふ夏の雲

早苗田や命の泳ぐ音を聴く

小田 慶喜